

リーディングDXスクール事業【実践事例】

奈良市立鼓阪小学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 振り返りで深める児童の自己認識

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

本校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、個々の児童が自らの学びの状況を客観的に把握できる力を大切にしている。

そこで、日々の授業において学び方や学びの状況に視点をおきながら振り返りを入力する取組を進めている。また、子どもたちは振り返り記入シートを共有しておくことで友達の記入内容がわかり、友達の内容を参考にしながら自分の文章の推敲をしている。

子どもたちに振り返りシートを通じて自分の学びの状況を客観視させ、自分の状況に応じて課題や問題を選択させる。

また、児童の状況は多様なため、各学年に応じた方法でクラス内の友達の状況を把握できるようにし、自然と友達に聞きに行ったり、一緒に活動したりする場面を増やしていく。



【児童と教員の様子】

児童が学びの振り返りを継続していくことで、児童の自己理解につながるだけでなく、教員による児童理解もめることができた。そのことにより、児童への声掛けも具体的になり教員と児童や児童相互の学びが深まってきた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

奈良市立鼓阪小学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 情報の収集と整理

【情報活用能力の育成】

学びを進めていくうえで、どこから・どのような情報を収集できるかが大切になっている。

児童の身近な情報源である教科書からも多くの大切な情報を収集できる。教員が学びの見通しを示す中で、児童が自ら必要なだけ情報を収集し、必要な形に加工するなどできる力を育成したい。

各学年の実態に応じて、教科書、資料集、書籍、web検索等様々な方法を使えるように指導を継続していく。その際に、ファクトチェックの視点も低学年から継続して意識させ、得た情報の公正性や信頼性についての視点を6年間を通して指導していく。



【児童と教員の様子】

フィルターバブル現象などが問題視される中、情報収集する際に集めた情報の公正性や信頼性に着眼することで、自分の意見の根拠や友達の意見の根拠などに視点が行くようになってきている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

奈良市立鼓阪小学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 職員室と教室の往復削減

【校務DX】

本市では、学習系と校務系のネットワーク統合が行われ、授業と校務で使用する端末がネットワークを切り替える必要もなく、一台の端末で行うことができる。

これまでも、一台の端末で学習と校務を行うことができていたが、ネットワークの切り替えが必要であり、また、データ移動も管理職の承認が必要になるなど、データ活用の観点からも活用しづらい環境であった。

今回ネットワークが統合され、場所を問わない環境が構築されたことにより、職員室と教室の往復の回数が減っただけでなく、クラウド環境を活用したデータの共有等、個々の教員の状況に応じて資料の共有や修正、提案等ができるようになった。

こんな時間がありますか？

- ・ 職員朝礼
- ・ コピー機や印刷機の前にいる時間
- ・ プリントを配る時間・集める時間
- ・ 回収物の枚数を数えて転記する時間
- ・ 朝の欠席電話を受ける時間
- ・ 職員室から教室に伝言に行く時間

【教員の様子】

クラウドを活用した業務の環境が整えられたことにより、時間の使い方・情報共有の仕方等、業務の仕方そのものに変化が起きている。なれるまでの負担も大きかったが、当たり前を見直すきっかけとして日々の業務改善に役立っている様子がうかがえる。